



# 日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.28

## 目 次

1. 新年度を迎えてのご挨拶  
理事長 岡部 信彦 .....2
2. ワクチン関連トピックス
  - I) 『わが国の麻疹排除認定～2015年3月～』多屋 馨子.....3
  - II) 『B型肝炎ワクチンを小児に広く接種する方向性を確認』中野 貴司 .....5
3. 第19回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第2報）  
第19回学術集会会長 尾崎 隆男.....7
4. 会員会告
  - 1) 2014年度第3回日本ワクチン学会理事会議事録（2014年12月5日）.....8
  - 2) 第18回日本ワクチン学会総会議事録（2014年12月6日）.....11
  - 3) 2014年度第2回日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会議事録（2014年12月5日）  
.....12

## § 新年度をむかえて―理事長挨拶

日本ワクチン学会理事長  
川崎市健康安全研究所所長  
岡部 信彦

日本ワクチン学会は、今年も新年度を迎えることができ、またこのたび平成27年度のニュースレターを発行するはこびとなりました。本学会の会員皆さまにおかれましては、ワクチン学会の活動に大きなお力添えをいただき、誠にありがとうございます。

この1年間も、我が国の予防接種・ワクチンを巡る動きは大きく、平成26年10月からはご存知のように高齢者に対する肺炎球菌ワクチン(23価莢膜多糖体ワクチン)が定期接種B類に、そして多くの小児科医にとっては長年の悲願であったともいえる水痘ワクチンが2回接種法として定期接種A類となりました。水痘ワクチンの生みの親である高橋理明先生のご存命中にわが国での水痘ワクチン定期接種化についてご報告ができなかったのは痛恨の極みですが、定期接種として導入後国内の水痘報告数は著減している現状を、どこかでこやかにご覧になっていたことと思う次第です。さらに今後は院内感染としての水痘がなくなり、悪性腫瘍等で治療中の子どもたちにとっての水痘感染の心配がなくなり、ひいて是水痘発生による病棟閉鎖に伴う小児医療の低下及び医療機関にとっての経済的損失なども消えていくことが期待されます。また帯状疱疹への予防などにも拡大すべき研究が続けられています。B型肝炎ワクチンも全乳児に対する定期接種化について厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会が厚生労働大臣に対して提言をし、現在その実施のための行政的検討が国において行われております。これが実現すれば、我が国においてHBウイルス関連の慢性肝炎・肝硬変そして肝がんが駆逐される可能も出てきました。詳細は本ニュースレター5ページにまとめられています。

平成27(2015)年3月27日、WHO西太平洋地域事務局(WPRO)は日本の麻疹は排除状態(measles elimination)にあることを認定しました。平成13(2001)年前後、国内の麻疹年間発生数は20-30万人であり、麻疹輸出国であるなどと有り難くないレッテルを貼られたりしたこ

ともありましたが、このたび麻疹排除状態であるとWHOが認定した国の仲間入りを果たしたことは、快挙であるといつて良いかと思えます。この活動は麻疹の対策に取り組んできた医療機関、検査機関、研究機関、本学会を含む関連諸学会、保健行政機関、教育機関、ワクチン製造・販売機関、報道機関、そして子供さんを持つ保護者の方々などのご理解、ご協力そして努力によってようやく遂げられたものであり、まさにall Japanで取り組んだものといえるでしょう。しかしこれで我が国の麻疹対策が頂上を迎えたわけではなく、さらにこの状態を維持するための努力を続ける必要があります。引き続き会員各位のご協力・ご支援をいただきたくお願い申し上げます。詳細については本ニュースレターの3ページをご覧くださいと思います。

一方ではHPVワクチン問題などは現在膠着状態にあるともいえ、我が国の「予防」に関する考え方に大きな課題が課せられていると思います。

本年度の日本ワクチン学会学術集会は、江南厚生病院 こども医療センター尾崎隆男先生のもと11月14-15日愛知県犬山市において開催されます。「基礎研究者と臨床家のコラボレーション」という、非常に興味をひかれる学会テーマが掲げられており、有意義な議論・意見交換、そして明日への発展が期待される場所ですので、多くの方のご参集をお願い申し上げます。また学会活動の一環として隣国韓国ワクチン学会(Korean Society of Vaccine : KSV)との交流を深めることが、昨年より大きく動きだし、日本から若手研究者のKSVへの積極的参加とそれに対する本学会からの補助、シンポジウムあるいは特別講演・教育講演などの両学会からの交換発表なども行われるようになりました。

平成27年度も、我が国におけるワクチン学的发展と、人々のより健康な暮らしのため、会員の皆様の活発な活動とご支援を、改めましてどうぞよろしくお願い申し上げます。

## § ワクチン関連トピックス

### トピックス I

#### わが国の麻疹排除認定～2015年3月～

国立感染症研究所 感染症疫学センター  
多屋 馨子

2015年3月27日にWHO西太平洋地域事務局は、日本に加えて、カンボジア、ブルネイ・ダルサラームの3カ国について、麻疹の排除状態※であることを認定した<sup>1)</sup>。2014年に認定されたオーストラリア、大韓民国、マカオ、モンゴルを加えると、WHO西太平洋地域で麻疹排除を達成したのは7カ国（地域）になる。

わが国は、「麻しんに関する特定感染症予防指針（2007年12月28日厚生労働省告示第442号）」に基づき2012年度を排除の目標としてきた。2008年には11,013人であった麻しん患者は2012年には283人まで減少し、大規模な集団発生は起こらなくなってきていた。5年後の見直しで2012年12月14日に一部改正され、2013年4月1日に適用になった「麻しんに関する特定感染症予防指針（厚生労働省告示第126号）」では、2015年度までに麻疹を排除し、WHOの認定も受けてその状態を維持することが目標となった<sup>2)</sup>。

この目標達成は、医療機関、行政機関（保健所等）、研究機関（地方衛生研究所等）、教育機関（学校等）、福祉機関（保育所等）、報道機関、関連企業、関連学会や医師会等を含めた国民の一人ひとりの努力の成果であり、誰が欠けてもなし得なかった快挙である。

排除が認定された2015年の麻疹患者報告数は、第1～17週の合計で16人（2015年4月30日現在暫定値）であり、全数報告が始まった2008年以降の同時期と比較しても最低である（図1）。2015年に報

1. 麻しん累積報告数の推移 2009～2015年（第1～17週）

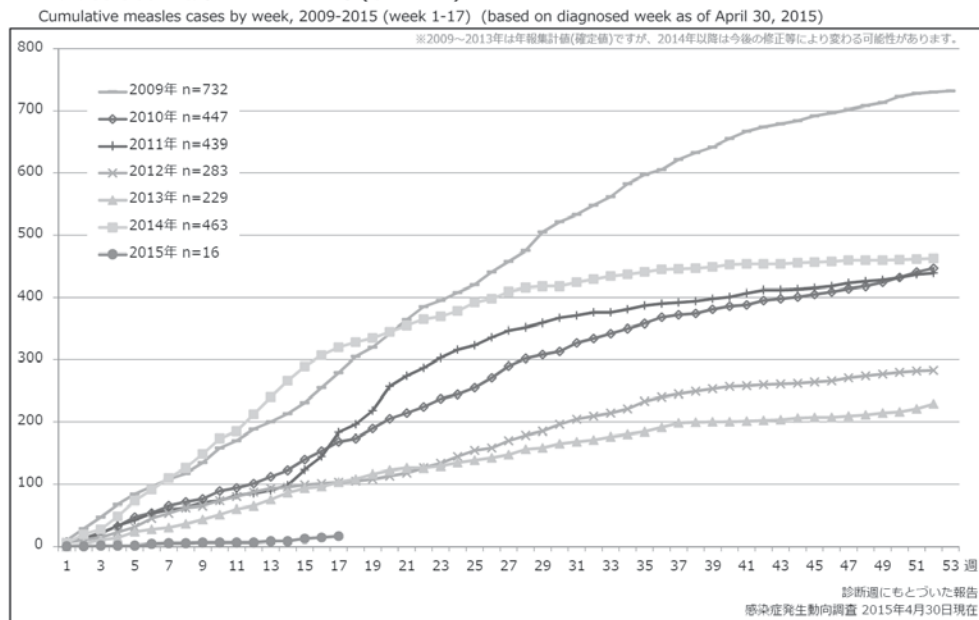


図1 麻疹累積報告数の推移 2009～2015年（第1～17週）  
（国立感染症研究所 感染症疫学センター HP より引用）

6. 年齢群別接種歴別麻疹累積報告数 2015年 第1～17週 (n=16)

Cumulative measles cases by age and vaccinated status, week 1-17, 2015 (as of April 30, 2015)

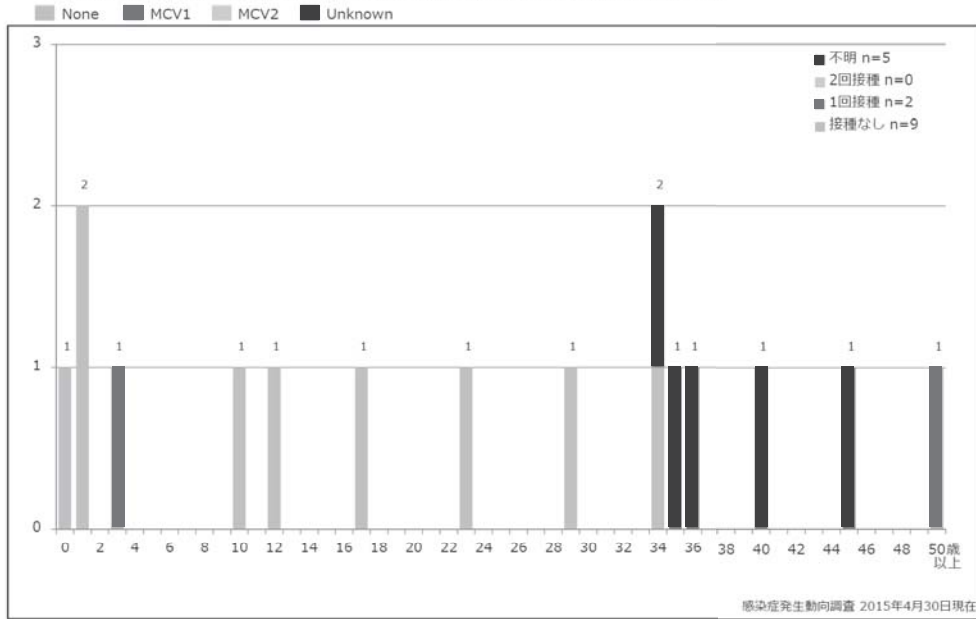


図2 年齢群別接種歴別麻疹累積報告数 2015年 第1～17週  
(国立感染症研究所 感染症疫学センター HP より引用)

告された16人の予防接種歴を見ると、接種歴無しが9人と最も多く、接種歴不明が5人、1回接種が2人であった。6～25歳は定期接種として2回の接種機会があったにも関わらず、4人とも未接種であった(図2)。

海外にはまだ麻疹が流行している国が多く、WHOの報告によると2013年の世界の麻疹患者報告数は194,139人であり、2012年の推定死亡数は12.2万人である<sup>3)</sup>。10年以上前に麻疹の排除を達成した米国でも2014年末から遺伝子型B3による麻疹のアウトブレイクが発生していることから<sup>4)</sup>、海外から麻疹ウイルスが持ち込まれても、広がらないようにすることが重要である。

そのためには、海外の麻疹の発生動向に注意を向けるとともに、予防接種率を高く維持して、麻疹ウイルスが持ち込まれても広がらないようにする必要がある。また、海外渡航前には麻疹の予防接種歴を確認し、麻疹に罹患したことがなく、1歳以上で未接種あるいは1回のみの接種の場合は事前に麻疹風疹混合ワクチン(以下、MRワクチンという。)を受けてから渡航するなど、海外で感染しないような工夫が必要である。

わが国の麻疹排除状態を維持していくためには、①一人患者が発生したらすぐに積極的疫学調査を実施して、感染拡大予防策を講じること、②全例の検査診断による質の高いサーベイランス制度を維持していくこと、③MRワクチンによる2回の定期予防接種率をそれぞれ95%以上に維持することが最も重要である。国民一人ひとりが実施できる対策としては、検査診断された麻疹の罹患歴がない場合は、1歳以上で2回の麻疹含有ワクチンの接種を受け、その記録を各自が保管しておくことである。

2007～2008年には麻疹輸出国と非難されたわが国も麻疹排除国になった今、次の目標は麻疹排除状態の維持と、2020年度までの風疹の排除である。

※排除状態：適切なサーベイランス制度の下、土着株による感染が1年以上確認されないこと。そして、WHO 西太平洋地域事務局は、麻疹排除が達成されたと確認するためには、以下に示す3項目の判断基準を挙げている<sup>5)</sup>。

- ①土着の麻疹ウイルス株が36か月以上にわたって当該地域で伝播していないことが示されること
- ②麻疹患者発生を監視する確実なサーベイランスにより麻疹排除の確認が可能であること
- ③ウイルス遺伝子型の解析により土着の麻疹ウイルス株伝播が起こってないと示せること

#### 参考資料

1. 国立感染症研究所、厚生労働省健康局結核感染症課：麻疹特集号・病原微生物検出情報IASR36：2015. 2015年5月現在 URL: <http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/iasr/36/422j.pdf>
2. 厚生労働省：麻疹に関する特定感染症予防指針. 2015年5月現在 URL: <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou21/dl/241214a.pdf>
3. WHO：Measles. 2015年5月現在 URL: [http://www.who.int/immunization/monitoring\\_surveillance/burden/vpd/surveillance\\_type/active/measles/en/](http://www.who.int/immunization/monitoring_surveillance/burden/vpd/surveillance_type/active/measles/en/)
4. 米国 CDC: Measles Cases and Outbreaks. 2015年5月現在 URL: <http://www.cdc.gov/measles/cases-outbreaks.html>
5. WHO 西太平洋地域事務局：Guidelines on verification of measles elimination in the Western Pacific Region, 2013. [http://www.wpro.who.int/immunization/documents/measles\\_elimination\\_verification\\_guidelines\\_2013/en/](http://www.wpro.who.int/immunization/documents/measles_elimination_verification_guidelines_2013/en/)

---

## トピックス II

### B型肝炎ワクチンを小児に広く接種する方向性を確認

川崎医科大学小児科  
中野 貴司

B型肝炎ワクチンは、予防接種制度の見直しについての第二次提言（2012年5月）、予防接種法の一部を改正する法律案に対する附帯決議（2013年3月）にもとづき、定期接種化の必要性が検討されてきました。定期接種化の課題として、小児期の水平感染の実態のさらなる把握、異なる遺伝子型ウイルスに対するワクチンの予防効果に関する検討などが挙げられていました。

第12回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会（2015年1月9日）、第6回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会（2015年1月15日）において、これら技術的課題に関して、これまでの検討結果が報告されました（表1、表2）。そして、B型肝炎ワクチンを仮に国民に対して広く接種機会を提供する場合の対応案が審議され、表3の内容が承認されました。

ただし、これはあくまで技術的検討の結果です。今後、国民に対して広く接種機会を提供する仕組みとして実施するためには、ワクチンの供給・実施体制の確保、必要となる財源の捻出方法などの検討を行った上で、関係者の理解を得るとともに、副反応も含めた予防接種施策に対する国民の理解が必要となります。

以上が、B型肝炎ワクチンの厚生科学審議会での審議の現状ですが、本ワクチンをわが国でも広く小児に接種する方向性が確認され、海外諸国との「ワクチン・ギャップ」を解消する歩みがまた一歩前へ進んだと言えます。

#### 参考資料：

- 1) 感染症エクスプレス@厚生省（Vol.181, 2015年1月9日）<http://kansenshomerumaga.mhlw.go.jp/>

- 小児における水平感染事例の報告があるが、大規模疫学調査でのHBs抗原の陽性率は0.025% (95%CI, 0.022-0.027%)と推計された。
- HBc抗体陽性者はHBs抗原陽性者の数倍以上存在することなどから、過去にB型肝炎ウイルスに曝露した小児が一定程度いるものと考えられる。
- 17-21歳においても上記と同様の傾向が見られ、それぞれの陽性率(HBs抗原0.02-0.03%, HBc抗体0.20-0.25%)に大きな差違を認めないことから、幼少期に特定の小児でウイルス感染が生じている可能性などが考えられる。
- 全出生者を対象に予防接種を実施することで、長期的には、B型肝炎による社会的疾病負荷の更なる軽減に繋がるものと考えられる。

第6回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会（2015年1月15日） 資料3より  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000071278.html>

表1 小児の水平感染に関する検討について

- 遺伝子型C由来のB型肝炎ワクチンを接種することで、遺伝子型AのB型肝炎ウイルスに対しても予防効果があることが示唆された。
- 我が国に流通する遺伝子型A及びC由来のB型肝炎ワクチンの、いずれの接種によっても、異なる遺伝子型のB型肝炎ウイルスに対する予防効果があると考えられる。

第6回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会（2015年1月15日） 資料3より  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000071278.html>

表2 交差反応の検討について

- 予防接種対象年齢は出生後から生後12月までとする。
- 標準的には、生後2ヶ月からのB型肝炎ワクチン接種を実施する(生後2ヶ月、3ヶ月、7-8ヶ月での接種。感染のリスクが高い場合には出生直後の予防も考慮する)。
- 使用するワクチン製剤は遺伝子型A型、C型どちらのウイルス由来の製剤も選択可能とする。

第6回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会（2015年1月15日） 資料3より  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000071278.html>

表3 B型肝炎ワクチンを仮に国民に対して広く接種機会を提供する場合の対応案



backnumber/2015-01-09.html

- 2) 第12回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会（2015年1月9日）資料  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000070705.html>
- 3) 感染症エクスプレス@厚労省（Vol.182, 2015年1月16日）<http://kansenshomerumaga.mhlw.go.jp/backnumber/2015-01-16.html>
- 4) 第6回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会（2015年1月15日）資料 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000071278.html>

---

## § 第19回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第2報）

第19回学術集會會長  
江南厚生病院こども医療センター 尾崎 隆男

第19回日本ワクチン学会学術集會を、平成27年11月14日（土）と15日（日）の2日間、名鉄犬山ホテル（犬山市）にて開催いたします。

さて、ここ数年間に、外国で使用されているワクチンが次々とわが国で市販され、ワクチンが使用できる疾病数は欧米先進国とほぼ同等になりました。また、多くのワクチンが任意接種であったことから universal immunization を基本とする欧米先進国とのスケジュール上のギャップを指摘されていましたが、いくつかのワクチンが定期接種に変更され、そのギャップも埋まりつつあります。しかし、それらワクチンの有効性・安全性の改善、至適接種スケジュールの検討など解決すべき課題は尽きません。また、ワクチンの無い感染症に対する新規ワクチンの開発や非感染症疾病に対するワクチン療法も今後の課題です。それら課題を解決するためのエビデンスの構築に臨床家の貢献は不可欠であります。私は臨床家ですので、若き臨床家への激励の意味を込め、本学術集會のテーマを「基礎研究者と臨床家のコラボレーション」としました。本学術集會が、基礎研究者と一緒に研究をやっていききたいと考える若き臨床家、また臨床家と一緒に研究をやっていききたいと思う若き基礎研究者の誕生に寄与することを願っています。

浅野喜造先生を委員長とする11名のプログラム委員により、プログラムの骨格が決定されました。特別講演は高橋理明先生が開発された水痘ワクチンについてとし、演者には、水痘ワクチンの臨床試験を世界で最初に行った浅野喜造先生にお願いしました。教育講演1はがんワクチンについて、教育講演2はワクチンのトピックスとしました。シンポジウムは二つ組まれており、テーマは「ワクチン発展のために臨床家は何かできるか」と「ワクチンにより免疫はいかに構築されるか」としました。また、昨年からは始まった次期会長講演を継続することにしました。企画されたプログラムが、学術集會参加者にとって有益で楽しいものとなることを願ってやみません。しかし、学術集會の成否は、なんと言っても一般演題の応募数および会の参加人数に懸かっています。皆様方の一般演題応募と学術集會参加を是非ともお願い申し上げます。

会長：尾崎隆男（江南厚生病院こども医療センター）  
会期：2015年（平成27年）11月14日（土）～15日（日）  
テーマ：「基礎研究者と臨床家のコラボレーション」  
会場：名鉄犬山ホテル（愛知県犬山市犬山北古券107-1）  
事務局：江南厚生病院こども医療センター  
西村直子  
〒483-8704 愛知県江南市高屋町大松原137  
TEL: 0587-51-3333 FAX: 0587-51-3300

## § 2014 年度 第 3 回 日本ワクチン学会 理事会議事録

日 時：2014 年 12 月 5 日（金）16：00～18：00

場 所：ホテル日航福岡 4F ローブルーム

出席者：【理事長】 岡部信彦

【理 事】 安部 忍、岡田賢司、喜田 宏、五味康行、齋藤昭彦、千北一興、中野貴司、  
長谷川秀樹、真鍋貞夫、森 康子、吉川哲史

【推薦理事】 中山哲夫

【理事資格】 廣田良夫 [ 第 18 回学術集會会長 ]

【監 事】 倉根一郎、宮崎千明

【編集委員長】 西條政幸

【記 録】 稲田至朗、横山信哉 [ (株) 春恒社 ]

欠席者：石井 健、多屋馨子（理事）

### 1. 報告事項

#### 1) 前回議事録の確認

岡部信彦理事長から 2014 年度第 2 回理事会議事録の報告がされ、修正事項があれば本理事会終了後までに申し出るよう要請があった。（申し出はなく承認された。）

#### 2) 一般経過報告

事務局（春恒社）より前回理事会（2014 年 10 月 20 日）から 11 月 30 日までの会員数増減について報告された。続いて賛助会員が毎年少しずつ減少していることが報告され、役員が賛助会員獲得へ努めることで合意した。

#### 3) 2014 年度一般会計中間報告

真鍋貞夫財務担当理事から 2014 年度一般会計収支および貸借対照表、財産目録の中間報告（2014 年 11 月 25 日現在）がされた。

#### 4) 2014 年度高橋賞記念基金会計中間報告

真鍋貞夫財務担当理事から 2014 年度高橋記念基金会計収支および貸借対照表、財産目録の中間報告（2014 年 11 月 25 日現在）がされた。

#### 5) 第 18 回日本ワクチン学会学術集會報告

廣田良夫会長から第 18 回日本ワクチン学会学術集會開催にあたり挨拶が述べられた。演題は 114 題を予定している。企業からランチョンセミナーで製品紹介を映像で行いたいと要望があったが、前例がないため今回は見送ることとした。託児室を設置し、2 件の申し込みがあった。

#### 6) 第 19 回日本ワクチン学会学術集會報告

岡部信彦理事長から第 19 回学術集會の報告がされた。

テーマ：「基礎研究者と臨床家のコラボレーション」

会 期：2015 年 11 月 14 日（土）-11 月 15 日（日） 会 場：名鉄犬山ホテル（愛知県犬山市）

#### 7) 第 20 回日本ワクチン学会学術集會報告



第 20 回学術集会会長に武下文彦先生（北里第一三共ワクチン株式会社）を理事会から総会に推薦することを確認した。

#### 8) Vaccine 誌編集委員会報告

西條政幸委員長から 2014 年度第 2 回 Vaccine 誌編集委員会の報告、Vaccine 誌への今後の掲載予定について報告がされた。続いて 2015 年秋刊行予定の Vaccine 誌 Special Issue from JSV について以下の通り報告された。

- ・ 2014 年 10 月 1 日設置予定だった Special Issue from JSV のためのポータルサイトが Vaccine 誌ホームページに 11 月 1 日に設置された。
- ・ 会員へ Special Issue from JSV への論文投稿の案内は既にメール配信で行ったが、12 月発行予定のニュースレターでも再度行い、2014 年度総会でもアナウンスを行う予定。本学会ホームページに案内を目立つよう掲載し、さらに周知を徹底する。
- ・ 投稿される論文は原著論文もしくは総説（総説の場合には、ご自身の研究業績・内容が含まれていること）とし、著者は筆頭著者および責任著者は日本ワクチン学会会員でなければならない。
- ・ 現況は原著が 1 編投稿されている。
- ・ 数名の先生に疫学、ワクチン開発等で日本オリジナルの論文となるような総説の執筆依頼をする。

#### 9) ニュースレターについて

中野貴司担当理事から Vol.27 の掲載内容について報告がされた。2014 年 12 月 19 日刊行を予定。ワクチン関連トピックスの“成人肺炎球菌ワクチンの定期化”は基本方針部会の呼称と同様に“成人用肺炎球菌ワクチンの定期化”に変更して発刊する。

#### 10) ワクチン推進ワーキンググループ活動報告

前回理事会に引き続き、中山哲夫担当理事から DT0.1mL と DPT0.2ml 及び DPT0.5mL の臨床試験について、2008 年 7 月から近年までの経緯が説明され、2014 年の状況について以下の通り報告された。

- ・ 2014 年には 11 歳の DT 接種時期に DPT 0.5ml の臨床試験が終了し申請済、もしくは申請段階である。その後に 18 歳以上の安全性を確認するよう厚生労働省から依頼があり、(一財) 阪大微生物病研究会、(一財) 化学及血清療法研究所、北里第一三共ワクチン (株) の 3 社が 18 歳以上の臨床試験について検討している。
- ・ (一財) 阪大微生物病研究会、(一財) 化学及血清療法研究所が開発する DTaP-sIPV の抗体の持続に関する臨床研究を進めているが、新たに北里第一三共ワクチン (株) が開発する DTaP-wIPV が認可された。(一財) 阪大微生物病研究会と (一財) 化学及血清療法研究所の 2 社は先行して臨床研究を厚生労働科研費で開始している。
- ・ 第一三共 (株)、サノフィ (株) は遅れて承認を得たことで公的資金の予算が組めない事や、製造メーカーが主導する臨床研究が計画し難い現状から、公的な組織が主体となってメーカーが臨床試験をサポートする形が望まれた。

#### 11) 予防接種推進専門協議会活動報告

吉川哲史担当理事から第 26 回予防接種推進専門協議会の内容が下記の通り報告がされた。

- 1) 成人用肺炎球菌ワクチンについて、4 月の米国 ACIP で 65 歳以上の成人に 13 価肺炎球菌結合型ワクチン (PCV13) を接種した後、12 月後に 23 価肺炎球菌多糖体 (ポリサッカライド)

ワクチンを接種するガイドラインが発表された。これを受けて日本呼吸器学会、日本感染症学会の合同委員会が設置され議論を行っている。

Ⅱ) 当協議会は発足時に各学会からの寄付金により運営していた。今後はホームページを立ち上げることもあり、各学会から3万円/年の協力金を要請する。

岡部信彦理事長よりⅡ)の報告を受け、本学会から当協議会への協力金3万円/年を予算計上することが提議され、各位異議なく承認された。

## 12) その他

高橋奨励賞応募者の年齢制限について、持ち回り理事会にて審議され下記内容への変更が承認されたことを確認した。

\* 日本ワクチン学会高橋賞選考委員会内規より抜粋

(応募) 7. [中略]「高橋奨励賞」は原則として募集年度の1月1日現在45歳未満であることを要する。(募集年度は1月1日～12月31日とする)

## 2. 審議事項

### 1) 2015年度一般会計予算案

真鍋貞夫財務担当理事から2015年度一般会計予算案の説明がされた。報告事項9)で承認された予防接種推進専門協議会への協力金をこれに追加計上し、異議なく承認された。

### 2) 2015年度高橋記念基金会計予算案

真鍋貞夫財務担当理事から2015年度高橋記念基金会計予算案について説明がなされ、承認された。

### 3) 学会ホームページの方針、充実に向けた意見交換について

齋藤昭彦理事より学会ホームページの刷新について報告がされ、前回理事会での審議内容を確認した。次回理事会でホームページ刷新に必要な費用や、草案を作成し具体的な内容の検討を行う。

### 4) COIの表示について

前回理事会に引き続き岡部信彦理事長より次年度学術集会に向けてCOI表示の規定を設ける提案がされた。他学会のCOI指針を参考に原案を作成し次回理事会で継続審議することとした。

### 5) ワクチンの事典(2004年刊行)の改訂について

前回理事会に引き続き中山哲夫理事よりワクチンの事典について改訂を行う提案がされた。岡部信彦理事長、中山哲夫理事がワクチンの事典改訂における編集委員会の立ち上げ及び草案を作成することで合意した。

### 6) 「感染症予防ワクチンの臨床試験ガイドライン Q&A」について

岡部信彦理事長より日本感染症医薬品協会より「感染症予防ワクチンの臨床試験ガイドライン」の「Q&A」案作成のため、本学会に協力の要請があったことが報告された。審議の結果、この要請は見送り様子を見ることで各位一致した。

## 3. その他

韓国ワクチン学会(KVS)との関係について

岡部信彦理事長が、KVS会長のDr.Joon Haeng Rheeに第18回学術集会の招待状を送り参加されること、また廣田良夫会長が懇親会へ招待し参加されることが報告された。これを機に今後KVSと協力関係を

深めていくことで一致した。

以上  
2014年12月5日  
日本ワクチン学会  
理事長 岡部 信彦

---

## § 第18回日本ワクチン学会総会議事録

日 時：2014年12月6日（土）13：30～14：00  
場 所：福岡国際会議場 3階 メインホール（第1会場）  
総会議長：第18回日本ワクチン学会学術集會会長 廣田良夫

### 1. 報告事項

#### 1) 一般経過報告

岡部信彦理事長から、2014年度活動状況・会員数現状報告の一般経過報告がされた。

#### 2) 日本ワクチン学会高橋賞・高橋奨励賞受賞について

岡部信彦理事長から、高橋賞選考委員会で審議の結果、第9回高橋賞は植田浩司先生（西南女学院大学）に授与されることが決定し、「高橋賞受賞記念講演」の前に受賞式を執り行うことが報告された。また、第3回高橋奨励賞は該当者なしとなったことが併せて報告された。

### 2. 議 事

#### 1) 2013年度決算および2013年度監査報告について

真鍋貞夫理事から2013年度決算報告がなされ、引き続き宮崎千明監事から2013年度会計監査報告があり、2013年度の決算案が承認された。

#### 2) 2015年度予算案について

真鍋貞夫理事から2015年度予算案について報告があり、承認された。

#### 3) 特になし

### 3. 第20回学術集會会長の推挙

岡部信彦理事長より、理事会から第20回学術集會会長として、武下文彦先生（北里第一三共ワクチン株式会社）が推挙されたことが報告され、異議なく承認された。

### 4. 次期、次々期会長挨拶

尾崎隆男次期会長より第19回日本ワクチン学会学術集會の概要が述べられた。続いて、第20回日本ワクチン学会学術集會 武下文彦次々期会長より就任挨拶が述べられた。

### 5. 第18回学術集會会長挨拶

第18回日本ワクチン学会学術集會 廣田良夫会長より挨拶がなされた。

以上

2014年12月6日  
第18回日本ワクチン学会学術集會  
会長 廣田 良夫

# § 2014 年度第 2 回日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会議事録

日 時：2014 年 12 月 5 日（金）15 時 00 分～16 時 00 分

場 所：ホテル日航福岡 4F オーキッドルーム

出席者：【委員長】西條政幸

【委 員】大石和徳，奥野良信，城野洋一郎，熊谷卓司，小西英二，中野貴司，中山哲夫，  
森 康子（担当理事）

【オブザーバー】岡部信彦

【記 録】稲田至朗、横山信哉〔株〕春恒社〕

欠席者：【委 員】清野 宏，谷口清州，多屋馨子

## 1. 前回議事録の確認

西條政幸委員長から前回議事録についての報告がされ、修正事項があれば本委員会終了までに申し出るよう要請があった。（申し出はなく承認された。）

## 2. 掲載原稿の進捗状況（Vaccine 誌）

西條政幸委員長から以下の原稿の進捗状況について報告された。

- ① LC16m8 に関する最新の研究成果についての総説（橋爪壯先生、西條政幸先生他）
- ② 第 16 回学術集会「ポリオワクチンの基礎」より  
「Development and introduction of inactivated poliovirus vaccines derived from Sabin strains in Japan」が Online 公開された。（清水博之先生）
- ③ 第 15 回学術集会シンポジウム 1 より、「H5 パンデミックウイルスの最近の情報」（迫田義博先生）
- ④ 第 18 回日本ワクチン学会学術集会アナウンス（廣田良夫先生）
- ⑤ 第 17 回学術集会 シンポジウム 1 『ウイルスベクターとワクチン』より  
「麻疹ワクチンウイルスベクター」（中山哲夫先生）
- ⑥ 第 17 回学術集会 シンポジウム 1 『ウイルスベクターとワクチン』より  
「水痘ワクチンウイルスベクター」（森 康子先生）
- ⑦ 第 17 回学術集会シンポジウム 「ウイルスベクターとワクチン」より  
「ワクチニア LC16 m 8 株（HCV,SARS,Influenza）ベクター」（小原道法先生）
- ⑧ 第 17 回学術集会シンポジウム 「ウイルスベクターとワクチン」より  
「センダイウイルスベクターを用いたエイズワクチン」（俣野哲朗先生）
- ⑨ 第 17 回学術集会 シンポジウム 2  
「ワクチン有害事象の発症メカニズムと報告システム」（谷口清州先生）
- ⑩ 第 17 回学術集会 シンポジウム 3「細菌ワクチンの効果と問題点」より（中野貴司先生）
- ⑪ 「沈降インフルエンザワクチン（H5N1 株）の安全性と免疫原性」神谷齊先生研究データの論文（中野貴司先生）
- ⑫ 第 16 回学術集会「JSV/ISV Joint Symposium」より  
石井健先生に下記 4 名の原稿執筆について取りまとめを依頼している。  
（川口 寧先生，Mi-Na Kweon 先生，Nirajan Y.Sardesai 先生，Ann S.De Groot 先生）

第 17 回学術集会のプログラムより執筆依頼をしていて、入稿していない原稿については執筆者にリマインドを適宜行う。

### 3. 今後掲載予定について (Vaccine 誌)

以下の論文の掲載を予定している。

- ① LC16m8に関する最新の研究成果についての総説 (橋爪壯先生、西條政幸先生他)  
(一財) 化学及血清療法研究所の横田先生が執筆に加わる。
- ② 第15回学術集会シンポジウム1より、「H5 パンデミックウイルスの最近の情報」 (迫田義博先生)
- ③ 第16回学術集会「JSV/ISV Joint Symposium」より (石井 健先生)  
(川口 寧先生, Mi-Na Kweon 先生, Nirajan Y.Sardesai 先生, Ann S.De Groot 先生)
- ④ 第8回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説 (廣田良夫先生)
- ⑤ 第17回学術集会 特別講演より「麻疹風疹対策:2012年度の総括と今後」 (岡部信彦先生)
- ⑥ 第17回学術集会 教育講演より  
「ワクチン開発のストラテジー:HIV ワクチン・結核ワクチン開発の経験から」 (保富康宏先生)
- ⑦ 第17回学術集会 シンポジウム1『ウイルスベクターとワクチン』より  
「ワクチニア LC16m8 株 (HCV, SARS, Influenza) ベクター」 (小原道法先生)
- ⑧ 第17回学術集会 シンポジウム1『ウイルスベクターとワクチン』より  
「センダイウイルスベクターを用いたエイズワクチン」 (俣野哲朗先生)
- ⑨ 第17回学術集会 シンポジウム1『ウイルスベクターとワクチン』より  
「麻疹ワクチンウイルスベクター」 (中山哲夫先生)
- ⑩ 第17回学術集会 シンポジウム1『ウイルスベクターとワクチン』より  
「水痘ワクチンウイルスベクター」 (森 康子先生)
- ⑪ 第17回学術集会 シンポジウム2  
「ワクチン有害事象の発症メカニズムと報告システム」より (谷口清州先生)
- ⑫ 第17回学術集会 シンポジウム3「細菌ワクチンの効果と問題点」より (中野貴司先生)
- ⑬ 「沈降インフルエンザワクチン (H5N1 株) の安全性と免疫原性」 神谷齊先生研究データの論文  
(中野貴司先生)

### 4. 今後の執筆依頼について (Vaccine 誌)

以下の通り執筆依頼を行う。

- ① 第19回学術集会アナウンス (尾崎隆男先生)
- ② 第9回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説 (植田浩司先生)
- ③ 第18回学術集会・特別講演「予防接種の健全な普及への取り組み」 (横倉義武先生)
- ④ 第18回学術集会・「高橋理明先生のご功績」 (山西弘一先生)  
※議題5.で審議の結果、Special Issue from JSV で執筆依頼を行う。
- ⑤ 第18回学術集会・教育講演「BK-SE36 マラリアワクチンの開発」 (堀井俊宏先生)  
※議題5.で審議の結果、Special Issue from JSV で執筆依頼を行う。
- ⑥ 第18回学術集会・シンポジウム1「未来の子供たちのために～ Hib 感染症をとりまく環境と展望～」  
「Success of Hib vaccination programmes in industrialised countries: United Kingdom as an example」 (David M. Salisbury 先生)
- ⑦ 第18回学術集会・シンポジウム2『Vaccine Epidemiology: Principles and Methods』 (廣田良夫先生)  
西條政幸編集委員長と廣田良夫先生が協議し進める。
- ⑧ 第18回学術集会・教育セミナー3  
「免疫不全患者への予防接種～固形臓器移植患者と免疫抑制薬使用中患者を中心に～」  
(宮入 烈先生)

⑨第18回学術集会・教育セミナー5

「水痘ワクチン定期接種化：その効果と今後の課題」

(吉川哲史先生)

5.Vaccine 誌 Special Issue from JSV 進捗報告

Special Issue from JSV 専用投稿サイトが当初の予定より1ヶ月遅れ、2014年11月1日に開設した。論文投稿の締切りは2015年2月末を予定しているが、状況により2015年4月までの延長を検討している。Special Issue from JSV の案内についてはメール配信で周知を行った。今後は総会、ニューズレターおよび学会ホームページでも周知を行う。投稿された論文は受付けた順に審査・査読を進める。すでに1編の論文投稿があり、数件の問い合わせがあった。

Special Issue from JSV の依頼原稿について審議の結果、以下の内容で執筆依頼をすることで一致した。

- |   |           |
|---|-----------|
| (1) 第18回学術集会教育講演『BK-SE36 マラリアワクチンの開発』について         | (堀井俊宏先生)  |
| (2) ニパウイルスワクチン開発                                  | (米田美佐子先生) |
| (3) Sabin-ポリオ不活化ワクチン開発                            | (山崎修道先生)  |
| (4) VZV 感染症の疫学調査                                  | (森 康子先生)  |
| (5) デングワクチン開発状況                                   | (小西英二先生)  |
| (6) 第18回学術集会講演「高橋理明先生のご功績」について                    | (山西弘一先生)  |
| (7) インフルエンザウイルスに対するアナフィラキシーに関する研究(長尾みづほ先生・中山哲夫先生) |           |
| (8) 沈降インフルエンザワクチン(H5N1株)の安全性と免疫原性                 | (中野貴司先生)  |
| (9) 日本における風疹の流行                                   | (多屋馨子先生)  |
| (10) 日本におけるポリオワクチン導入                              | (平山宗宏先生)  |
| (11) 麻疹に関する総説                                     | (岡部信彦先生)  |

本委員会終了後に委員からの推薦があれば検討する。

以上

2014年12月5日  
日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会  
委員長 西條 政幸



---

日本ワクチン学会ニュースレター 第 28 号  
2015 (平成 27) 年 8 月 27 日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局  
〒 210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-13  
川崎市健康安全研究所  
日本ワクチン学会理事長 岡部 信彦  
<http://www.jsvac.jp/>  
<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>  
〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号  
新宿ラムダックスビル  
(株) 春恒社 学会事業部内  
日本ワクチン学会係  
TEL : 03-5291-6231/FAX : 03-5291-2176/ E-mail : jsvac@shunkosha.com

---

